

EMT981 再生系の再構成(16)

－ハイドンを聴く(7)－

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

今回、Autograph MINI での試聴を行います。

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの弦楽四重奏曲です。

The Royal Philharmonic Collection 222838-203

ハイドン 弦楽四重奏曲 No.77 作品 76 No.5

弦楽四重奏曲 No.63 作品 64 No.3

弦楽四重奏曲 No.1 作品 1 No.1

The Royal Philharmonic Chamber Ensemble

Live Notes WWCC-7731

ハイドン 弦楽四重奏曲 作品 20-4<Lark>

弦楽四重奏曲 作品 76-2<Fiftt>

ロータス弦楽四重奏団

3. EMT981 の試聴結果

The Royal Philharmonic Chamber Ensemble 盤は、1994 年の録音で Royal Philharmony の選抜メンバーによる演奏のようで、すっきりとした音のオーソドックスで伸びやかな演奏です。弦楽四重奏曲 No.1 は、あまり聴く機会がないものですが、完成度は高いという印象です。

ロータス弦楽四重奏団盤は、2012 年の録音で、演奏会で求めてきたものです。透明度が高く、すっきりと切れ味の良い演奏です。なお、ハイドンの弦楽四重奏曲 2 曲の他にベートーヴェンの弦楽四重奏曲も収録されています。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤ともデジタル臭さを感じないすっきりとした艶やかな音が楽しめます。

以上